

**シェルとの脱炭素社会実現に向けたメタネーション・水素・CCUS など
幅広い分野における共同検討の開始**

2022年6月6日
大阪ガス株式会社

大阪ガス株式会社(代表取締役社長:藤原 正隆)は、Shell Eastern Petroleum (Pte.) Limited (以下「シェル」)と、脱炭素社会実現に向けたメタネーション*¹や水素、バイオメタン*²、二酸化炭素(以下「CO₂」)回収・利用・貯留(CCUS)などの幅広い分野において、実現可能性調査を開始するための基本合意書を締結しました。また、メタネーション分野においては、東京ガス株式会社(以下「東京ガス」)を含む3社にて共同検討を進めることに合意しました。

当社グループは、2021年1月に「カーボンニュートラルビジョン」を策定し、メタネーションなどによる都市ガス原料の脱炭素化、再生可能エネルギー導入を軸とした電源の脱炭素化によって、2050年のカーボンニュートラル実現を目指しています。また、メタネーションの社会実装にむけて、2030年時点に当社のガス販売量の1%相当*³に当たる合成メタンを導入することを目指して、様々な活動に取り組んでいます。

当社はシェルと、国内外におけるクリーンな水素やアンモニア*⁴およびバイオメタンの活用、CO₂の回収・利用・貯留などに向けた共同検討を行います。

さらにメタネーション分野においては、シェルおよび東京ガスと、合成メタンの開発・導入に関する実現可能性の検討や事業性評価などに取り組めます。

Daigas グループは、今後も脱炭素社会実現に向けて、様々な企業や自治体などとの連携を加速することで、2021年1月に発表した「カーボンニュートラルビジョン」のもと、脱炭素社会に貢献する技術・サービスの開発に取り組み、気候変動をはじめとする社会課題の解決に努め、暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループを目指してまいります。

*1:水素とCO₂から都市ガスの主成分であるメタンを合成する技術

*2:廃棄物由来のバイオガスを精製し、メタン濃度を90%以上にしたもの

*3:約6,000万m³(2020年度都市ガス販売量ベース)

*4:本発表では、ブルー*⁵・グリーン水素*⁶および、ブルー*⁵・グリーン*⁶アンモニアを指す

*5:化石燃料から作られ、製造工程で排出されたCO₂を回収・貯留・利用された水素・アンモニア

*6:再生可能エネルギーなどを使って、製造工程においてもCO₂を排出せずに作られた水素・アンモニア

■(参考)シェルの概要

会社名	Shell Eastern Petroleum (Pte.) Limited(シェル・イースタン・ペトロリアム社)
本社所在地	シンガポール
設立	1960年8月

以上